

平成17年度（2005年度）

# 日田市埋蔵文化財年報



平成17年度（2005年度）  
日田市埋蔵文化財年報

発行日 平成19年3月30日  
編集 日田市埋蔵文化財センター  
日田市教育委員会文化財保護課  
〒877-0077  
大分県日田市南友田町516-1  
TEL 0973-24-7171  
発行 日田市教育委員会  
〒877-8601  
大分県日田市田島2-6-1  
TEL 0973-23-3111  
印刷 川ワハラ企画  
大分県日田市水目町315-4

## 発刊にあたって

平成17年3月22日、日田市と旧日田郡の天瀬町、大山町、上津江村、中津江村、前津江村の1市2町3村は合併をし、新たな日田市として出発致しました。

また、それまでの文化課も、平成17年度からは文化財保護課へと変わり、新たな体制となり、今までと同様の埋蔵文化財の保護活動を、合併により広がった広大な範囲に対しても行っていくこととなりました。

本書は合併後の新たな体制のもとで実施された埋蔵文化財の保護活動を記録した最初の報告となります。少しずつですが、発掘調査や普及・啓発の面においても旧郡部での事業や活動が見て取れるかと思えます。今後も、新日田地域全体の方々に埋蔵文化財というものをよりよく理解して頂けるよう、普及・啓発活動の一層の充実を図っていき、その周知に努め、埋蔵文化財の発掘調査事業を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、この1年間日田市の埋蔵文化財調査および普及・啓発に多大なるご指導・ご協力を賜りました関係者の皆様方に、心よりお礼を申し上げます。

平成19年3月

日田市埋蔵文化財センター施設長

日田市教育庁文化財保護課長 後藤 清

### 例 言

1. 本書は、平成17年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
2. 本書には、別府大学文学部文化財学が行った古墳の測量調査の内容についても併せて掲載している。
3. 本書には、平成16年度に実施した隈山古墳の緊急調査の内容についても併せて掲載している。
4. 発掘調査における遺物・図画・写真類等の資料については、日田市埋蔵文化財センターにて保管・展示している。
5. 表3・4における「詳細地図番号」は日田市作成「1/2,500都市計画基本図」および大分県作成「1/5,000大分県森林基本図」、「住宅地図」をもとに作成し、センターにて保管している。
6. 受領図書は平成17年4月1日～平成18年3月31日の間に日田市教育委員会に寄贈された書物を掲載し、併せて日田市立博物館あての書物も掲載した。
7. 受領図書一覧表の作成では、伊藤一美氏の協力を得た。
8. 表紙写真は、中川原遺跡4号中世墓と同1号中世墓出土の念珠である。(本文P8参照)。
9. 平成17年度の埋蔵文化財調査担当は、土居和幸・今田秀樹・行時桂子・若杉竜太・渡邊隆行・矢羽田幸宏、普及啓発事業担当は中村邦宏である。
10. 本書の執筆は1～2)及び目次を各担当者が行ったほかは、今田が行い、文責を末尾に記している。なお、護国寺古墳・城山古墳に関しては、別府大学文学部 下村智教授・同大学文化財研究所 玉川剛司研究員に執筆して頂いた。
11. 編集は各担当者の協力の下、今田が行った。

### 目 次

発刊にあたって	
Ⅰ 平成17年度の埋蔵文化財調査事業	1
1) 平成17年度埋蔵文化財調査の概要	1
2) 発掘調査・確認調査の概要	4
3) 試掘調査・立会調査・照会の概要	15
Ⅱ 埋蔵文化財普及・啓発事業	16
1) 埋蔵文化財センター運営事業	16
2) 埋蔵文化財の普及・啓発活動	17
3) その他	19
Ⅲ 受領図書一覧	20

## I 平成17年度の埋蔵文化財調査事業

### 1) 平成17年度埋蔵文化財調査の概要

#### 平成17年度の発掘調査等の動向(表1)

平成17年度は公共事業・民間開発に伴う埋蔵文化財包蔵地の事前照会件数は83件、このうち試掘・立会調査を行ったものは36件、発掘調査を行ったものは11件であった。

発掘調査は民間開発に伴うものが5件で、その原因は分譲住宅造成に伴うものが4件、鉄塔建設が1件であった。県公共事業に伴う発掘調査は農業基盤整備事業に伴う町ノ坪遺跡D区、求来里平島遺跡E・F区、中川原遺跡2次の3件で、市の公共事業に伴う発掘調査は小学校のグラウンド改修に伴う中川原遺跡の1件であった。そのほか、史跡整備に伴う事前確認を目的としたガランドヤ古墳、市教委が地元の方を協力するという形で掘り下げ・実測を行った筑後軌道跡の2件の確認調査を実施した。また、別府大学文学部文化財学科により市内の古墳2件の測量調査が実施されている。

前年度と比較した全体的な傾向としては、事前照会審査件数が1.5倍以上に増加し、それに伴い試掘・立会調査件数も増加しているものの、発掘調査件数は前年度から横這いである。公共事業に伴う開発件数は増減を繰り返しながらほぼ水平傾向を示しており、民間の開発件数は、平成10年度前後を中心とした増加傾向に若干落ち着きが見られていたものの、当年度は大幅に増加していることが見て取れる。市町村合併の影響も少なからず含まれているものと想像される。この民間開発に伴う照会件数の増加は、今後もある程度は続くものと予測される。これに対応するためにも、本市での調査体制の整備、職員の資質の向上、作業の効率化など、多くの課題が提起されるものと考えられる。

#### 平成17年度の発掘調査の内容(表2)

本年度は旧石器時代を中心とする調査例はなく、縄文時代から中世にいたる遺跡の調査を行っている。さらには、確認ではあるものの筑後軌道のような近代のものについても調査が行われている。

縄文時代の調査としては町ノ坪遺跡D区において後期後葉の遺物包含層が確認され、多くの土器や石器が出土している。また、本格的な調査が次年度となる中川原遺跡2次においては、前期や後期の遺物が多く検出されており、前期以降の遺物包含層の存在が想定される。この他、長者原遺跡6次・瀬ヶ本遺跡・中川原遺跡においても少量であるが縄文土器等が出土している。

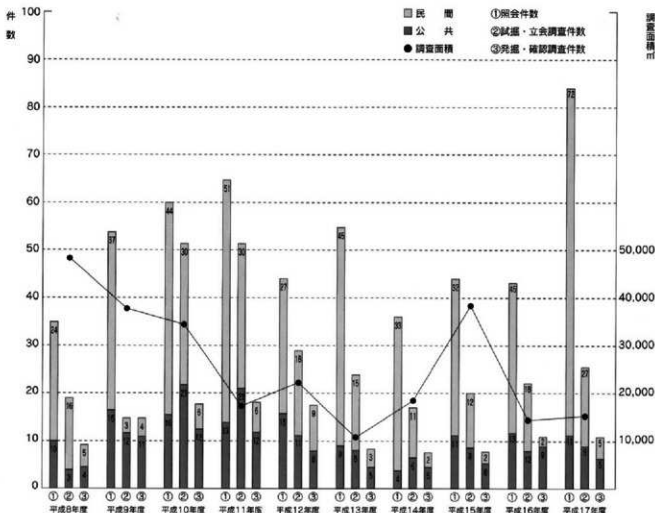
弥生時代の調査では、いくつかの集落の一端を垣間見ることが出来ている。中川原遺跡において後期前半頃とみられる竪穴住居跡が確認されたほか、同時期とみられる石棺墓、さらに石棺墓と近い時期とみられる木棺墓や土壇墓なども確認されている。町ノ坪遺跡D区や一丁田遺跡では後期以降の竪穴住居跡が確認されている。また、中川原遺跡2次においても弥生時代後期の遺物を含む竪穴遺構が検出されており、今後の調査に期待が分かっている。この他、大波羅遺跡4次や瀬ヶ本遺跡・長者原遺跡6次などにおいても弥生時代の遺物が確認されており、周辺に存在するであろうその時期の集落などを窺うことが出来ている。

古墳時代の調査としては、ガランドヤ古墳で1号墳の周溝および前庭部の確認が行われ、周溝は確認できなかったものの、前庭部の規模が判明している。求来里地区においては、町ノ坪遺跡D区で中期、求来里平島遺跡で後期から終末期にかけての集落が確認され、土地利用の変遷を知る上での好資料を得ることが出来ている。また、一丁田遺跡では初頭および後期の竪穴住居跡が確認されている。この他、瀬ヶ本遺跡・長者原遺跡6次などにおいても古墳時代の遺物が確認されている。

古代の調査では、町ノ坪遺跡D区で竪穴住居跡が1軒確認されたほか、求来里平島遺跡F区でその時期とみられる竪立柱建物が発出されている。また、大波羅遺跡4次では、確認された遺構からの出土遺物が少なかったものの、古代と想定される。

中世の調査では、上井手遺跡において、多数の柱穴群、溝跡や土坑などが確認されている。上井手遺跡周辺は、11世紀以降に開発された「竹田別符」の推定地でもあることから、今回確認された集落との関連が想定されている。中川原遺跡では4基の土壇墓が確認され、これら墓の中からは人骨とともにガラス製とみられる念珠が出土している。

表1 埋蔵文化財の調査件数および調査担当者の推移



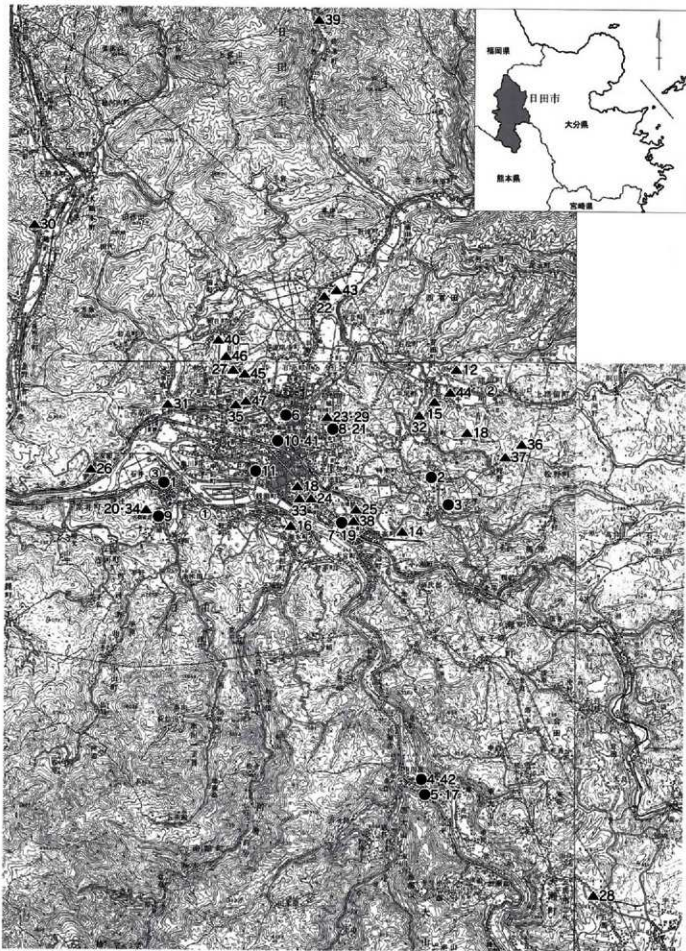
	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
専門職員数	4	5	3 (4)	4	3 (4)	4	4	4	4	6
嘱託職員数	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0
調査面積	38,343	37,510	33,846	16,794	21,254	10,552	18,663	38,827	13,309	15,736

面積単位: m

表2 平成17年度発掘・確認調査一覧表

面積単位: m

番号	遺跡名	所在地	事業主体	調査原因	開発面積	調査面積	調査年月日	費用負担	調査担当者	備考
1	史跡ガランドヤ古墳	石井字尾園180-3地	公共	確認調査	—	60	0112~0324	国庫補助	土居	
2	町ノ坪遺跡D区	求米里字町ノ坪1548-4地	公共	圃場整備	45,000	4,500	0426~0919	原因者	矢野・杉浦	前年度継続
3	求米里平島遺跡E・F区	求米里字若来905地	公共	圃場整備	45,000	3,400	1121~0324	原因者	若杉	
4	中川原遺跡2次	大山町西大倉3456-1地	公共	グランド造	30,000	6,400	0313~0329	原因者	今田	次年度継続
5	中川原遺跡	大山町西大倉3494-1地	公共	グランド造	4,075	300	1003~1209	原因者	行時	
6	一丁田遺跡	港町506地	民間	分譲宅地	1,750	330	0427~0524	原因者	渡邊・矢野田	
7	上井手遺跡	日真町字其田918-1地	民間	分譲宅地	1,606	131	0630~0802	原因者	若杉・矢野田	
8	大波羅遺跡4次	上城内町1116-1	民間	分譲宅地	3,001	360	0912~0920	原因者	渡邊・杉浦	
9	長者原遺跡6次	小山字神原192-1	民間	鉄塔建設	110	110	0123~0313	原因者	渡邊	
10	瀬々本遺跡	三本松新町751-9地	民間	分譲宅地	1,887	140	0201~0304	原因者	矢野田・行時	
11	筑後軌道	庄字宇川原987地	—	確認調査	—	5	0623	—	渡邊・杉浦 渡邊・矢野田	



● 発掘調査 ▲ 試掘・立会調査 ①～③測量調査ほか (P12～14)

平成17年度発掘調査位置図 (1/75,000)

## 2) 発掘調査・確認調査の概要

### 1. 史跡ガランドヤ古墳2次

### —史跡整備に伴う範囲確認調査—

ガランドヤ古墳は日田盆地西部の筑後川左岸の河岸段丘上に営まれた3基の古墳で構成される。東から3・1・2号墳の順に並列して立地しており、このうち1・2号墳は装飾古墳として知られ、昭和59・60年度の1次調査では新たな壁画の発見や多くの副葬遺物が発見されている。また、装飾古墳としては珍しく近接して2基存在することや年代を決める手がかりとなる副葬品の残りがよく、加えて2号墳にみられる赤地に緑の顔料による絵画手法といった特徴を有することから、平成5年に国史跡の指定を受けている。

今回の確認調査は古墳の保存整備を目指した保存整備事業の一環として実施しているもので、昨年度に引き続き1号墳の周溝と前庭部の確認に努めた。調査では3本（7～9トレンチ）のトレンチを設定し、その内容は次の通りである。

7トレンチは古墳南側（正面）に設定したもので、昨年度の2・3トレンチでは閉塞石や前庭部の一部が判明したので、今回はそのすぐ東側を拡張してその検出を行った。今回の調査によって前庭部の規模が長さ（南北）約5.1m、幅（東西）約4.5m、閉塞石の幅約1.5mであることがわかった。

8トレンチは古墳東側に設定した。周溝の確認を目的としたが、後世に大きく攪乱を受けていてその存在を確認するまでには至らなかった。

9トレンチは古墳北側に設定した。ここでは周溝と古墳背後に残る土盛がマウンドかどうかの確認を目的とした。結果、周溝は確認できず、また土盛も後世に盛られたものであることが判明した。

こうした調査と昨年度の調査結果から、1号墳の閉塞石から玄室奥壁までの長さが11.9mであることが判明し、また周溝については巡らせていないと判断される。

（土居）



遺跡位置図 (1/5,000)



9トレンチ



前庭部



閉塞石及び列石



1号墳全景



7トレンチ

## 2. 町ノ坪遺跡D区

—県営圃場整備事業求来里地区に伴う発掘調査—

遺跡は、求来里川右岸の標高123～126mの沖積面に位置する。

今回のD区の調査では、調査区が3ヶ所に分かれていたことから、北側からD1区・D2区・D3区とした。

D1区及びD3区では、33軒もの竪穴住居跡のほか、多数の土坑やピットなどの遺構が確認された。

竪穴住居跡は、弥生時代後期のもの8軒、古代の所産とみられるもの1軒のほかは古墳時代中期のものとみられる。

弥生時代後期の竪穴住居跡はベッド状遺構を持つものであり、中には張出し部を持つものもみられる。炉は地床炉である。

古墳時代中期の竪穴住居跡には、ほとんどカマドが有り、その中には須恵器を持つものもみられた。さらに、その多くは重複し合って確認されたことから、住居の構造や当該期の遺物の変遷などを考える上で貴重な資料となろう。また、これら住居跡からは、住居およびカマドを廃棄する際の祭祀に用いられたとみられる土器等が多く出土しており、当時の人々の祈りなどを窺い知ることの出来る資料であると言える。

古代のものとみられる竪穴住居は、3m×3mとその規模は小さいものであった。遺存状況は悪かったもののカマドとみられる痕跡は把握することが出来た。

D1区とD3区との間の低地に位置するD2区では、縄文時代後期と弥生時代中期の遺物包含層が確認された。中でも縄文時代後期の遺物包含層は良好であり、多くの縄文土器や石器が出土した。縄文土器は、後期後葉のいわゆる三万田式土器の古手に当たるものであり、特筆すべき遺物として「X」字型石器の出土が挙げられよう。これら豊富な縄文時代遺物は、遺跡地周辺に存在したであろう当該期の集落の存在を窺わせるものである。

この町ノ坪遺跡では、今までの調査（A～D区）で後期旧石器時代から近世以降にかけての多くの遺構や遺物を確認することが出来ている。今後の整理作業の進展により、各時代の様相はもとより、時代を通しての土地利用のあり方の変化など、多くのことがみえてこよう。

(今田)



遺跡位置図 (1/5,000)



縄文土器出土状況 (D2区)



竪穴住居発掘状況 (D1区)



竪穴住居発掘状況 (D3区)



D3区全景

求来里平島遺跡は、求来里川流域に位置し、E区（調査面積608㎡）は西側の元宮台地から派生した標高約135mの低丘陵上に、F区（調査面積2,845㎡）はE区より約100m南東側の標高約130mの沖積面に位置する。平成5年に行った広域農道建設に伴うA～C区の調査では縄文時代後期末の竪穴住居や古墳時代中期のカマド出現期の集落が確認されている。また、平成15・16年に行った市道建設に伴うD区の調査では古墳時代後期の集落などが確認されている。この他、下流域には、弥生時代中期～古墳時代後期を中心とした集落が確認された、町ノ坪遺跡・金田遺跡・小西遺跡などがある。

E区の調査では隣接するB・C区の調査結果から竪穴住居などが確認されることを予想していたが、表土剥ぎを行った結果、既に大きく削平を受けており、明確な遺構の確認はできなかった。

F区の調査では、調査区の東側を中心に竪穴住居や掘立柱建物、土坑が確認された。

竪穴住居は約40軒確認され、その時期は古墳時代後期～終末期に属する。須恵器編年でみれば、TK23～TK217の時期幅に取り、その中心は6世紀後半である。本遺跡のA～C区や求来里川下流に位置する町ノ坪遺跡、金田遺跡ではカマド導入期の5世紀代の住居が多数確認されている。今回の調査では、この時期の住居は確認できなかったことから、後期になり、生活域が川の上流へと拡大していったことを示しているといえる。

また、これら竪穴住居の数軒と軸を同じくする2間×3間、2間×4間の掘立柱建物が確認された。これらの建物は倉庫とみられ、集落内の配置を考える上でも重要な資料といえる。



遺跡位置図 (1/5,000)



住居跡群



竪穴住居発掘状況 (西から)



遺跡全景 (東から)



カマド発掘状況 (南から)



この他、6世紀後半の竪穴住居を切る2間×2間の総柱の掘立柱建物や中世の四面庇をもつ2間×3間の掘立柱建物が確認された。詳細な時期の検討は、今後の整理段階で行わなければならないが、古代・中世においても、古墳時代後期に比べ、規模は縮小しているとはいえ、断続的に集落が存在していたことが窺える。

求来里川流域ではこれまで多くの調査が行われてきており、縄文時代から近世にいたる生活の痕跡が確認されている。特に弥生時代中期末以降、近世までは規模の大小はありながらも継続的に集落が営まれていることがわかっている。それぞれの遺跡での空白時期を別の遺跡が埋めるといった状況がみてとれ、流域全体での集落変遷や開発の様相を把握することが今後の重要な検討課題である。

(若杉)



建物跡1



建物跡2

#### 4. 中山原遺跡2次

—県営中山間地域総合整備事業大山地区に伴う発掘調査—

遺跡は、大山川左岸、標高130m前後の微高地上に位置している。今回の調査では、事前の確認調査などにより囲むことの出来た約6,400㎡を、その対象範囲としている。

17年度の調査は、対象範囲のうち進入可能な範囲約1,600㎡のみについて行なうこととした。

調査では、複数の土坑や竪穴とともに多数のピットが検出された。今回は調査期間も短かったため、表土除去出来た範囲の遺構検出作業を中心に行ない、複数確認された樹木倒壊痕と一部土坑やピットの掘下げを行なった。樹木倒壊痕からは、縄文前期以降の複数時期の遺物が確認された。完照はしていないが土坑には、縄文時代後期の遺物が出土しているものもみられる。ピットはきれいに並ぶものもあり、掘立柱建物の柱穴の可能性が高いものも多いようである。また、掘下げは行っていないが、竪穴においては、その検出時に多量の弥生時代後期の遺物が含まれていることが把握されているものや、カマドとみられる痕跡が付されているものなどが確認されている。

調査は次年度継続となるが、いずれにしても当地域の先史・古代の様相を解明する上で、その成果は重要な材料となつてこよう。

(今田)



遺跡位置図 (1/5,000)



作業風景

遺跡は阿蘇を源として北流する大山川の左岸、標高135m前後の、急峻な地形の多い大山川沿岸では比較的大きな沖積地に位置する。調査の対象となった大山小学校庭ではかつて工事の際に数基の石棺墓が見つかっており、また周辺では工場建設の際に環濠集落とも考えられる弥生時代中期の溝や包含層が見つかるなど、弥生時代の遺跡の存在が以前から知られていた地域である。

今回の調査では竪穴住居3軒・石棺墓3基、木棺墓1基、土壘墓7基が検出され、土壘墓については埋土の状況やプランの違いなどから2時期に分かれることが判明した。

竪穴住居のうち1軒では一辺約4mと推定される隅丸方形のプランから主柱穴・炉跡が確認され、弥生時代後期前半頃の土器が出土しており、他2軒もほぼ同時期と捉えることができる。

石棺墓のうち2基では棺材として安山岩の板石が使用され、保存状態は悪いものの、成人の人物が残存していた。棺内出土の土器片から、弥生時代後期前半以降と考えられる。木棺墓とそれに隣接する土壘墓3基についても、主軸方向の石棺墓との近似性から、石棺墓とさほどかけ離れた時期ではないであろう。

また残る土壘墓4基には人骨が残存しており、①土葬で頭北面西の側倒屈葬が行われ、②手元付近から念珠が出土するという共通点がある。さらにそれぞれが8m程度の距離を等しく保って存在することから、長期にわたる埋葬の結果というよりも比較的短期間のうちに形成された墓地と考えられ、また墓標や盛土などの表面施設の存在を想起させる。これらの詳細な時期は不明であるが、仏教思想を反映する念珠の存在から、古くとも中世以降のものと考えられる。なお検出された人骨は、保存状態は不良であるが、残存部位は比較的多く、分析により成人女性・老年男性・熟年男性などであることが判明している。

念珠以外の副葬品を持たないため被葬者像は明らかにできないが、鎌倉新仏教の展開が大山にまで浸透していた様子が窺える。(行時)



空撮 (南から)



1号竪穴住居



3号中世墓



2号石棺墓

## 6. 一丁田遺跡

一宅地造成に伴う発掘調査一

遺跡は日田盆地のほぼ中央の標高83mの沖積地に位置し、北に流れる花月川と南の旧河道とに挟まれた微高地に立地する。

調査では竪穴住居6軒、土坑1基、溝4条、掘立柱建物1棟、柱穴多数が確認された。これらの遺構は出土遺物から、弥生時代後期～古墳時代初期、古墳時代後期、中世に比定される。

特に注目されるのが、弥生時代後期～古墳時代初期の竪穴住居である。近年の調査成果により、盆地内の沖積地は川に近すぎて居住に適さないという従来の認識は変わってきている。しかし、本遺跡のように良好な資料が得られた例はこれまで少なく、弥生時代にはすでに川傍であっても氾濫を受けにくい微高地を居住区域としていた様子が明らかとなったことは、大きな成果であった。

また、古墳時代初期の竪穴住居からは在地系のほか、畿内・山陰系統の外来的要素を持つ土師器が多く出土している。これまで外来系土師器は小迫辻原遺跡のほか、その周辺の本村遺跡や尾部田遺跡などで確認されていたが、拠点集落のみならず、周辺の小規模集落においても畿内系の文化が受容されていたことが想定される。(矢羽田)



2号住居跡

## 7. 上井手遺跡

一宅地造成に伴う発掘調査一

遺跡は三隈川支流である中野川右岸の標高約90mの沖積地上に位置する。遺跡の北東約350mの独立丘陵上には、国指定史跡の装飾古墳を有する法恩寺山古墳群が存在する。

調査では、現地表面より約1.5m下の暗黄褐色砂層に掘り込まれた、溝2条、土坑7基、柱穴が多数確認された。

2条の溝は、調査区の南端で切り合っており確認され、その北側に柱穴・土坑が集中して検出された。調査範囲が限られていたため、建物の確認を行うことはできなかったが、柱穴の検出状況から、多数の建物が存在していたと考えられる。これらの遺構からは、土師質土器・皿や同安窯系・龍泉窯系の青磁などが出土し、その時期は、14～15世紀の範囲に収まる。また、柱穴が溝付近で途切れていたことから、この溝には屋敷地の区画溝としての機能があったと考えられる。

遺跡周辺は11世紀以降に開発された竹田別符の推定地にあたり、今回確認された集落との関係を窺わせる。

また、本遺跡は氾濫を受けやすい、川に隣接する場所にも関わらず、建物群が存在する可能性があることは、当時の集落立地を考える上で重要な問題を提起したといえる。

この調査は中野川流域における最初の本格的な調査であり、その全容を解明するには至らなかったが、周辺における今後の調査の進展により、その様相が明らかになってくるであろう。(若杉)



遺跡全景 (北西から)

## 8. 大波羅遺跡4次

一分譲住宅造成に伴う発掘調査一

遺跡は日田盆地東部、標高約90mの沖積地に位置しており、今回の4次調査区は1次調査地点より200m程北側にあたる。調査では溝7条、掘立柱建物2棟、柱穴多数が確認された。

それぞれの遺構の時期については、年代を特定できる遺物の出土が少ないものの、概ね古代～中世の範囲に収まるものと考えられる。また、流路と想定される溝には弥生土器の混入が見られ、調査区周辺には弥生期の遺構が展開する可能性が高い。以上の調査結果から、調査区一帯に古代～中世にかけての集落が存在していたものと推定される。

近年この遺跡周辺において、各種の開発が行われ、なかでも調査区南側の1次調査地点では古代の墨書土器や瓦などの遺物を含む遺構、北側の慈眼山瀬戸口遺跡では墨書土器などの遺物や官人層の存在を伺わせる井戸などの遺構が発見され、古代日田郡の拠点となる施設が存在が想定されている。また、中世期には大蔵氏の居城跡である慈眼山が北側に聳え、その眼下に多数の中世集落の存在が確認されている。このような古代から中世の遺跡が密集する中において、今回の調査結果はそれぞれの遺跡の広がりを検討する好資料と言える。

(渡邊)



遺跡位置図 (1/5,000)



調査区遺景

## 9. 長者原遺跡6次

一鉄塔建設に伴う発掘調査一

遺跡は日田盆地南西部、標高約118mの原と呼ばれる台地上に位置しており、調査区は台地の北東縁辺部にあたる。調査では溝2条、土坑10基、柱穴多数が確認された。

それぞれの遺構の時期は、出土した遺物から2号溝が古墳時代後期、その他の遺構については年代を特定できる遺物の出土が少ないなどの、概ね弥生～古墳時代の範囲に収まるものと考えられる。また、風倒木痕からは縄文土器の混入が見られ、調査区周辺には縄文期の遺構が展開する可能性が高い。以上の調査結果から、台地崖付近まで弥生～古墳時代の集落が存在し、また縄文時代の生活遺構が展開していたものと推定される。

本調査区一帯の台地は、国指定史跡穴隈音古墳、これまで5次の調査が行われた長者原遺跡や長者原田迎遺跡などが広範囲に所在するなど、市内でも有数の遺跡の密集地域である。このうち、調査区の西側に、穴隈音古墳や長者原遺跡4次調査石棺墓群などの墳墓群が展開しており、今回の調査で確認された6世紀代の生活遺構の存在は、墳墓群の被葬者集落が台地周辺に所在していたことを窺わせるなど注目される。

(渡邊)



遺跡位置図 (1/5,000)



調査区遺景

## 10. 堀ヶ本遺跡

—宅地造成に伴う発掘調査—

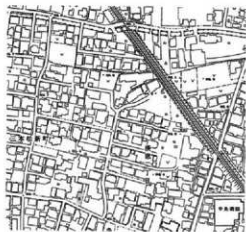
遺跡は日田盆地のほぼ中央の標高約82mの沖積地上に位置し、先述した一丁田遺跡の南西約400mに所在する。

調査では、縄文時代～古墳時代にかけての遺物包含層とそれより後の時代に掘り込まれた溝3条と少数の柱穴が見られた。

遺物包含層とそれに前後する時代は幾度も氾濫を受けた痕跡が顕著に見られ、複雑に堆積している。度重なる氾濫により、次第に土地が高くなっていく様子が看取され、包含層より後の時代には遺構が見られ、比較的安定した土地の利用が可能であったと考えられる。それぞれの遺構からは年代を特定できる遺物は出土していないが、層位的に古代～中世の範囲に取まると考えられる。また、溝の1条については、現在の地籍図中で「水路」と表記されている土地と一致することから、現在の地籍図が作成された近代かあるいはそれ以降にもこの溝が水路として利用されていたと考えられる。

今回の調査では、遺構・遺物共に少なく、遺跡の一端を検出したに過ぎないと思われ、はっきりとした遺跡の性格に言及することは難しい。しかしながら、未だ資料の少ない日田盆地の沖積地の旧地形と土地利用を考える上では、貴重な成果が得られたといえる。

(矢羽田)



遺跡位置図 (1/5,000)



1号土坑

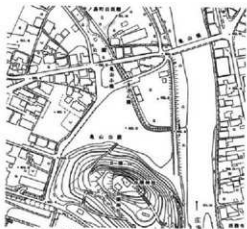
## 11. 筑後軌道

筑後軌道は明治36年の吉井一田主丸間で開通した筑後馬車鉄道(同40年に筑後軌道に改称)を皮切りに、順次路線を伸ばし、大正5年には日田～久留米間が全通した。総延長は約50kmに及び、当時の3フィート(914mm)ゲージ鉄道としては、全国最大の規模である。国鉄久大本線の開通後、昭和4年に廃止され、その役目を終えたが、当時の筑後川流域の経済発展に大きく寄与した鉄道である。

今回の調査は、市内中ノ島町で土地所有者の許可を受けた地元の方が、掘り下げを行い、軌道の石敷きが確認されたとの新聞報道に端を発する。担当者が現地へ赴き、本人の承諾を得た上で市教委が協力する形で、掘り下げ・実測を行った。その結果、軌道敷の基礎とみられる河原石の石組みが長さ約6mに亘り確認された。石組みは現地表面より約50cmの深さに2段に組み立てられていた。

今回の調査地点は庄手川にかかる橋の手前にあたり、敷で覆われていたことにより開発を免れ、遺構が残っていたものと思われる。

筑後軌道は近世より、船で行っていた木材等の運搬に取って代わる陸上輸送手段として、近代日田の経済発展を支えた重要な輸送機関であった。市内には石橋やトンネルなど軌道に利用された遺構は数多く残っており、これらは日田の近代化遺産として保存するとともに、資料化に努めていかなければならない。(若杉)



遺跡位置図 (1/5,000)



軌道敷石組み検出状況 (北から)

### ① 観音寺古墳群

### —史跡の内容確認に伴う測量調査—

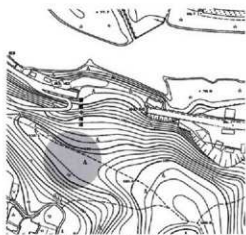
古墳群は、盆地南側にある上野台地の西側に延びる尾根上、標高約120mに立地し、前方後円墳1基を含む計3基で構成される。周辺には、古墳時代の後期の装飾古墳であるガランドヤ古墳群が北西側の河岸段丘上に、穴観音古墳が西側の長者原台地に存在し、東側の上野台地には縄文から中世の複合遺跡である上野遺跡が広がっている。

測量調査は、前方後円墳とされる1号墳の墳丘形態、規模、周溝の有無、立地状況の確認のため、8月22日～9月2日の12日間実施した。なお本調査は、市教委や地主の協力のもと、日本私立学校振興・共済事業団の大学教育高度化推進特別経費を受け、別府大学文化財研究所で実施した。調査に使用した座標は世界測地系で、尾根南側の210号線バイパス工事現場から、施工主及び業者の許可を得て移動し、設定した。測量はデジタル機器を使用した変化点測量で行い、測量図は等高線間隔25.0cmで図化した。

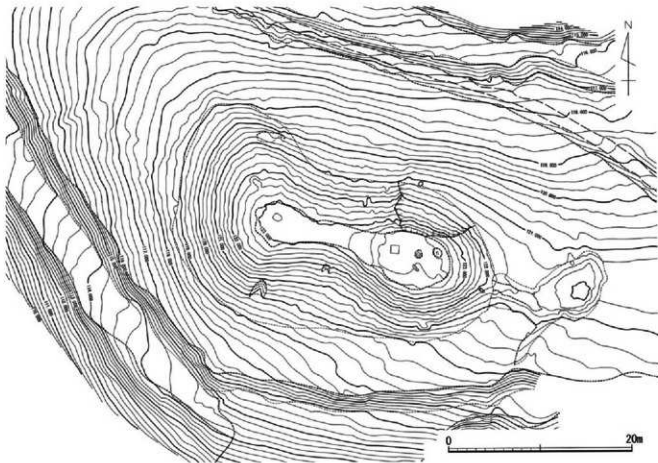
なお、本稿掲載分の測量図は、平成18年3月31日現在のものである。

調査の結果、墳丘全体は、削平や流土によりやや変形しているが、東西墳丘部の西側については、下端が南北方向へ広がることから、前方部は西側であると考えられる。したがって、後円部が東側を向き、墳丘が尾根の丘陵部に沿って立地するという状況から、巧みに自然地形を利用した造営であることが窺える。規模については、現状で全長36.0m、前方部幅20.0m、後円部径18.0mを測り、後円高と前方高の差は0.6mで後円部のほうが高い。また、後円部東側に平面プランが楕円形を呈し、20～30cm大の礫と土からなる、高さ1.0mの盛土が確認された。なお、今回の測量調査では、後円部・クビレ部の規模・形態、周溝の有無については正確な把握ができなかった。当古墳は、市内の盆地南側に立地する唯一の前方後円墳であり、今後確認調査により内容を解明し、保存整備していくことが課題となろう。

(下村・玉川)



遺跡位置図 (1/5,000)



墳丘測量図 (1/400)

## ◎城山古墳

—史跡の内容確認に伴う測量調査—

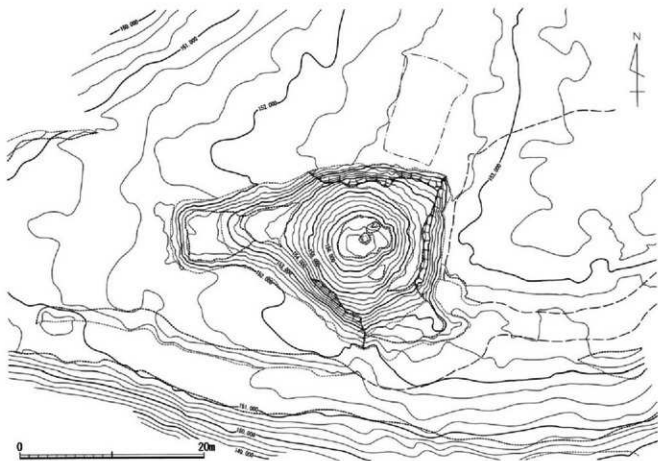
城山古墳は、北東から西に派生する標高150～160mの須ノ原台地の南端に立地し、前方部を西に向ける前方後円墳である。周辺には、有田川を挟んだ対岸の台地にクエト古墳(1・2号)、その西側に平島古墳、塔ノ本古墳(1～3号)、弥生後期～古墳時代にかけての集落遺跡である平島遺跡などが存在する。

本古墳は、昭和63年に大分県前方後円墳研究会により測量調査が行われた。作成された測量図は、墳丘部及び周辺部が対象で、等高線間隔は25.0cmである。今回は測量範囲を広げ、あらたに周辺地形を含む墳丘形態、規模、周溝の有無、立地状況の確認を目的とした測量調査を、平成17年9月5日～9日、10月22・23日、平成18年2月13～17日の12日間行った。なお本調査は、市教委や地主の協力のもと、日本私立学校振興・共済事業団の大学教育高度化推進特別経費を受け、別府大学文化財研究所で実施したものである。調査に使用した座標は世界測地系で、測量はデジタル機器を使用した変化点測量で行い、測量図は等高線間隔25.0cmで図化した。本稿掲載分の測量図は、平成18年3月31日現在のものである。

調査の結果、規模については、現状で全長29.9m、前方部幅7.5m、後円部径18.5mを測り、後円高と前方高の差は3.2mを測る。後円部は、ほぼ全面にわたる削平及び崩落により方形を呈し、墳丘斜面には北から東側にかけて若干のテラスが確認できる。しかし築造当初のものかは不明である。また前方部の平面は、端部に向かって狭くなっており、端部及び側面が削平されている。さらに墳頂は、半ばあたりに段が認められ、端部に向けて盛土が削られている。墳丘周辺では、両側に畑作開墾時のものと思われる段落ちの上端に沿って、葦石に使用したと思われる礫が多量に確認された。以上のように多くの改変を受け、形態、規模、周溝の有無など不明な点が多いため、今後の確認調査に期待したい。



遺跡位置図 (1/5,000)



墳丘測量図 (1/600)

### ③隈山古墳

### 一石室崩落防止のための緊急調査一

隈山古墳は、日田盆地南西部にある独立丘陵の隈山に所在し、山頂よりやや下った南斜面に位置する。現況では丘陵の大半が墓地として利用され、墓石が立ち並ぶ状況である。

古墳は、これまでその所在が知られていなかったが、開口部らしき穴の存在が通報されたことから、現地確認を実施した。確認の結果、天井石が崩落した横穴式石室であることが判明した。しかし、墓地在立並ぶ共有地であることから本調査は困難であると判断し、現況での測量・写真撮影を実施して、真砂土で埋め戻して保存措置を講じることとなった。

調査の際に、南北軸約2.3～2.5m、東西軸約1.6～1.8m、現況床面から天井部までは約1.4mを測る小形の横穴式石室で、板石積みの円形の持送り天井を有し、装飾の見られない玄室のみが残存していることが確認された。

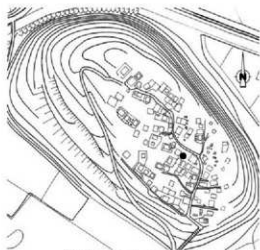
古墳の南側の段丘上には装飾古墳であるグラウンドヤ古墳群が所在しており、これらに隣接して古墳が所在することは、装飾古墳群の築造の過程を考える上で貴重な発見と言える。（渡邊）



遺跡位置図 (1/5,000)



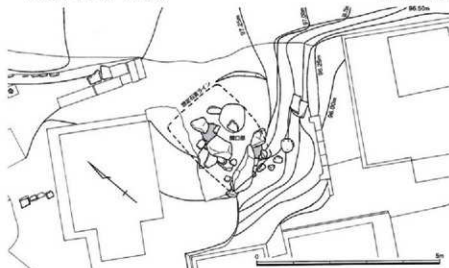
古墳近景



古墳位置図 (1/2,000)



石室内石積状況



古墳測量図 (1/100)



表3 試験・立会調査一覧表

面積単位：㎡

集約	集約名	集約区分	集約内容	調査年度	調査面積	調査種別	調査回数	調査区分	調査の年代	調査種別	立会日時	調査
12	国土交通省	民間	有明ビル1853-2	1,265	15	0421	民間	〇	〇	〇	〇	国土交通省
13	国土交通省	民間	資材再集約施設	本郷1614-1	1,943	20	0430	民間	〇	〇	〇	国土交通省
14	国土交通省	民間	分譲住宅建設	日吉町1401-1	1,809	23	0512	民間	〇	〇	〇	国土交通省
15	国土交通省	民間	分譲住宅建設	有明ビル746-1	2,137	12	0512	民間	〇	〇	〇	国土交通省
16	国土交通省	民間	個人住宅	森野町746-1	1,213	37	0527-0608	民間	〇	〇	〇	国土交通省
17	国土交通省	公共	有明ビル建設	大田町西大33494-1	4,075	45	0605	民間	〇	〇	〇	国土交通省
18	国土交通省	民間	分譲住宅建設	春日町1873-1	223	13	0607	民間	〇	〇	〇	国土交通省
19	国土交通省	民間	分譲住宅建設	日吉町西大151-1	1,808	15	0608	民間	〇	〇	〇	国土交通省
20	国土交通省	民間	商業施設工事	内野町西大21-1	2,751	3,457	22	0614-15	民間	〇	〇	国土交通省
21	国土交通省	民間	分譲住宅建設	上野町西大1116-1	2,869	30	0621	民間	〇	〇	〇	国土交通省
22	国土交通省	民間	分譲住宅建設	三軒丸太	1,794	29	0622	民間	〇	〇	〇	国土交通省
23	国土交通省	民間	分譲住宅建設	上野町西大1093-2	831	17	0622	民間	〇	〇	〇	国土交通省
24	国土交通省	民間	アパート建設	有明ビル358-3	434	15	0623	民間	〇	〇	〇	国土交通省
25	国土交通省	民間	分譲住宅建設	有明ビル1803	1,433	28	0707-0708	民間	〇	〇	〇	国土交通省
26	国土交通省	公共	商業施設工事	友成3582	400	13	0714	民間	〇	〇	〇	国土交通省
27	国土交通省	公共	商業施設工事	小宮町西大1007-1	1,890	6	0715-0721	民間	〇	〇	〇	国土交通省
28	国土交通省	民間	分譲住宅建設	有明ビル527-7	500	26	0720	民間	〇	〇	〇	国土交通省
29	国土交通省	民間	分譲住宅建設	上野町西大1093-2	831	63	0721-0726	民間	〇	〇	〇	国土交通省
30	国土交通省	民間	分譲住宅建設	大田町西大1093-1	860	11	0805	民間	〇	〇	〇	国土交通省
31	国土交通省	民間	分譲住宅建設	有明ビル1803	200	13	0831	民間	〇	〇	〇	国土交通省
32	国土交通省	民間	資材再集約施設	有明ビル746-1	871	18	0827	民間	〇	〇	〇	国土交通省
33	国土交通省	民間	アパート建設	有明ビル523-4	646	15	1011	民間	〇	〇	〇	国土交通省
34	国土交通省	民間	商業施設工事	内野町西大21-1	2,751	3,457	150	1017-1019	民間	〇	〇	国土交通省
35	国土交通省	民間	分譲住宅建設	友成1135-2番地	156	16	1031	民間	〇	〇	〇	国土交通省
36	国土交通省	民間	分譲住宅建設	有明ビル1093-2	225	19	1104	民間	〇	〇	〇	国土交通省
37	国土交通省	民間	分譲住宅建設	有明ビル1093-1	225	20	1107	民間	〇	〇	〇	国土交通省
38	国土交通省	民間	分譲住宅建設	日吉町西大151-1	1,808	15	1114	民間	〇	〇	〇	国土交通省
39	国土交通省	民間	商業施設工事	小宮町西大1234-8	2,700	78	0323-0331	民間	〇	〇	〇	国土交通省
40	国土交通省	民間	商業施設工事	小宮町西大0999-3	1,500	6	0324	民間	〇	〇	〇	国土交通省
47	国土交通省	民間	分譲住宅建設	小宮町西大1133-2	7,100	173	0327-0330	民間	〇	〇	〇	国土交通省

表4 書類審査のみの照会一覧表

面積単位：㎡

発行日	集約名	集約区分	集約内容	調査年度	調査面積	調査種別	調査回数	調査の年代	調査種別	立会日時	調査
0407	民間	商業施設工事	有明ビル746-1	200	1	0456	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0408	民間	商業施設工事	有明ビル746-1	2,000	1	0456	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0408	民間	個人住宅	森野町746-3	83	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0414	民間	商業施設工事	東田町西大2882-1	223	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0414	民間	商業施設工事	東田町西大2202-1	225	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0414	民間	商業施設工事	東田町西大1387-1	225	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0414	民間	商業施設工事	東田町西大1227-2	225	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0414	民間	商業施設工事	大田町西大1283-12	225	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0414	民間	商業施設工事	大田町西大1257-6	225	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0414	民間	商業施設工事	大田町西大1258-1	225	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0414	民間	商業施設工事	大田町西大1258-3	225	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0420	民間	商業施設工事	東田町西大1101-1	4,000	1	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0420	公共	商業施設工事	東田町西大1101-1	21,850	100	0472	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0502	民間	資材再集約	有明ビル1490-1	2,000	1	0517	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0510	民間	商業施設工事	有明ビル1490-1	144	1	0517	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0511	民間	商業施設工事	有明ビル1490-1	220	1	0517	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0512	民間	商業施設工事	有明ビル1490-1	1,501	1	0517	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0516	民間	商業施設工事	有明ビル1490-1	1,525	1	0517	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0617	民間	アパート建設工事	有明ビル227	160	1	0627	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0627	民間	個人住宅	有明ビル746-1	8,539	1	0627	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0630	民間	商業施設	有明ビル1389	6,572	1	0627	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0713	民間	商業施設工事	有明ビル746-1	230	1	0713	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0713	民間	商業施設工事	有明ビル746-1	1,348	1	0713	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0714	民間	個人住宅	有明ビル746-1	9,761	1	0713	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0714	民間	個人住宅	有明ビル746-1	7,701	1	0713	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0721	民間	個人住宅	有明ビル746-1	393	1	0713	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0805	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	1,501	1	0805	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0805	民間	商業施設工事	有明ビル623-4	1	1	0805	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0823	民間	商業施設工事	有明ビル623-2	20	1	0823	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0909	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	1,801	1	0909	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0909	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	1,801	1	0909	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0922	民間	個人住宅	有明ビル746-1	354	1	0922	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0927	民間	商業施設工事	有明ビル623-3	236	1	0927	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0929	民間	アパート建設工事	有明ビル623-1	1,046	1	0929	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1011	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	3,829	1	1011	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1012	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	8,764	1	1012	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1021	民間	アパート建設工事	有明ビル623-1	742	1	1021	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1029	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	430	1	1029	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1031	民間	商業施設工事	有明ビル623-2	7,000	1	1031	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1124	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	498	1	1124	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1129	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	1,323	1	1129	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1212	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	1,841	1	1212	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1216	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	742	1	1216	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1219	民間	個人住宅	有明ビル746-1	149	1	1219	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1223	民間	共同住宅	有明ビル623-1	858	1	1223	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1227	民間	共同住宅	有明ビル623-1	4	1	1227	民間	〇	〇	〇	国土交通省
1305	民間	共同住宅	有明ビル623-1	25,000	1	1305	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0126	民間	共同住宅	有明ビル623-1	350	1	0126	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0130	民間	商業施設工事	有明ビル623-1	460	1	0130	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0215	民間	個人住宅	有明ビル623-1	4	1	0215	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0216	民間	個人住宅	有明ビル623-1	4	1	0216	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0303	民間	共同住宅	有明ビル623-1	14,200	1	0303	民間	〇	〇	〇	国土交通省
0320	民間	共同住宅	有明ビル623-1	1	1	0320	民間	〇	〇	〇	国土交通省

## II 平成17年度の埋蔵文化財普及・啓発事業

### 1) 埋蔵文化財センター運営事業

平成15年度より5年間を一つの区切り、埋蔵文化財センターの運営事業を行っており、今年度はその3年目として発掘調査速報展を開催し、合併による新市誕生に伴い常設展をリニューアルオープンしたほか、前年度に引き続き市民を対象とした考古学講座などの普及活動にも力を入れた。

### 1. 平成16年度埋蔵文化財発掘調査速報展（5月13日～6月24日）

平成16年度に市内で行った発掘調査の成果を市民にいち早く公開するため遺物・写真パネルの展示を行い、市内を中心に365人の来館者があった。

#### 埋蔵文化財センター見学者数

月	総見学者数	団体	個人	特別展
4月	3	0	3	
5月	298	119	179	速報展 (5/13～6/24)
6月	86	51	35	365人
7月	73	0	73	
8月	61	30	31	
9月	20	9	11	
10月	25	16	9	
11月	2	0	2	
12月	13	0	13	
1月	12	0	12	
2月	76	70	6	
3月	10	0	10	
	679	295	384	

【企画展開催校】春日岡小学校（119名；センター見学）、春日岡中学校（4名；センター見学）、春日岡小学校（47名；センター見学）、春日岡小学校（5名；センター見学）、春日岡中学校（24名；センター見学）、春日岡小学校（13名；センター見学）、上野原小学校（17名；センター見学）、高岡公民館ヒカリっ子館（11名；センター見学）、朝日大学カナル・ヴィンテージ文化講座（41名；センター見学）



常設展示風景



速報展見学者風景

### 2. 考古学講座「タイムトリップひたvol.3」

市民を対象に、「考古学」や「埋蔵文化財」を通して「地域の歴史」に対する関心を深めてもらうために市内外から講師を招き、10回の講座を実施した。

月日	回数	内 容	講 師	受講人数
0608	第1講	縄文時代の終わりから弥生時代の始まり —考古学の方法による弥生時代の実年代—	西南学院大学教授 高倉洋彰氏	48
0622	第2講	旧石器時代から縄文時代へ	大分県教育委員会職員 後藤一重氏	40
0713	第3講	ジャーナリストから見た考古学 考古学の楽しさは、発掘の楽しさ ～日田は文化遺産、産業遺産の宝庫です～	大分合同新聞社日田支局 清田透氏	40
0727	第4講	縄文時代から弥生時代へ	熊本大学教授 甲元貞之氏	27
0810	第5講	発掘調査報告 亀石山遺跡 平成16年度発掘調査報告① 入館講話	今田秀樹 行時穂子	26
0824	第6講	弥生時代から古墳時代へ —小道止原遺跡と宇佐市小郡遺跡・風土記 の丘古墳群—	宇佐市教育委員会職員 小倉正五氏	32
0914	第7講	平成16年度発掘調査報告② 金田遺跡 平成16年度発掘調査報告② 兼勝堂山古墳	若杉竜太 別府大学講師 玉川藤司氏	32
0928	第8講	比多国造から日田郡へ —前方後円墳と「風土記」からみた日田の古代—	大分県教育委員会職員 田中伸介氏	32
1012	第9講	平成16年度発掘調査報告③ ガランドヤ古墳 平成16年度発掘調査報告④ 豊原山瀬戸川遺跡	上居和幸 渡邊隆行	34
1023	第10講	九州国立博物館見学バスツアー	文化財保護課職員	37

※申込み人数 57人



考古学講座講演風景



バスツアー風景

### 3. 考古体験・体験教室・出張展示

楽しみながら先人の知恵や技に触れ、埋蔵文化財についての理解を深めてもらうための機会を提供する目的から、「火燻し体験・発掘体験・整理作業体験・展示見学・考古の話」などの体験メニューを各団体からの申込みにより実施すると共に、光岡小学校ふれあい祭に併せて光岡地区の調査成果の出張展示を実施した。

月日	協力・協賛先	内 容	場 所	参加人数
0526	成宜小学校	展示見学、火燻し体験	埋蔵文化財センター	119
0609	赤石小学校・三和小学校	展示見学、火燻し体験	埋蔵文化財センター	4・47
0809	中部公民館	展示見学、火燻し・狩猟体験	埋蔵文化財センター	13
0819	上津江公民館	展示見学、火燻し・狩猟体験	埋蔵文化財センター	17
1015	光岡公民館ヒカリっ子塾	展示見学、狩猟体験	埋蔵文化財センター	11
1030	光岡ふれあい祭	出張展示・火燻し講座	光岡小学校	226・26
1226	西有田公民館わんぱく教室	火燻し体験	西有田公民館	17
0209	五馬中学校	展示見学、火燻し体験	埋蔵文化財センター	24
0216	台小学校	展示見学、火燻し・整理体験	埋蔵文化財センター	5



出張展示 (光岡ふれあい祭)



火燻し講座 (光岡ふれあい祭)



狩猟体験 (上津江公民館)

### 2) 埋蔵文化財の普及・啓発活動

遺跡の調査成果を広く一般市民に公開するため、現地説明会や講解の派遣、調査報告書の作成を実施した。

#### 1. 大山町中川原遺跡現地公開

中川原遺跡の発掘調査の成果を広く一般に公開する目的で、平成17年11月12日に大山小学校児童向け現地公開を、同27日に現地説明会を開催した。現地説明会では、出土遺物および遺構写真の展示のみを行い104名の見学があった。



児童向け現地公開風景



現地説明会風景

#### 2. 発掘調査が語る私塾成宜園とその遺品展

広瀬淡窓没後150年記念事業の一環として、「発掘調査が語る私塾成宜園とその遺品展」と題し、発掘調査の成果を広く公開するため、市役所1Fロビーにて、平成17年10月25日～11月7日まで開催した。

成宜園跡の発掘調査で出土した遺物や調査風景・出土状況等の写真、成宜園絵図、年表等のパネルを展示し、展示品をより理解するための参考資料として筆・硯・墨・入門簿、水滸も併せて展示し、2週間の展示期間中293名の見学があった。



展示風景1



展示風景2

### 3. 講師派遣・講師依頼

講師の依頼件数は考古学講座に伴う依頼は8件、派遣は7件であった。

月日	区分	派遣・依頼先	内 容	講 師
0417	派遣	大分県考古学会	朝日天神山古墳の発掘調査について	若杉
0608	依頼	西南学院大学	考古学講座第1講「縄文時代の終わりから弥生時代の始まり 一考古学の方法による弥生時代の実年代へ」	西南学院大学教授 高倉洋彰氏
0622	依頼	大分県教育庁文化課	考古学講座第2講「旧石器時代から縄文時代へ」	大分県教育委員会職員 後藤一重氏
0713	依頼	大分合同新聞日田支局	考古学講座第2講「ジャーナリストから見た考古学」	大分合同新聞日田支局長 清田通氏
	依頼	日田考古学同好会	考古学講座第3講「考古学の楽しみは、発掘の楽しみ ～日田は文化遺産、産業遺産の宝庫です～」	高瀬春生氏
0727	依頼	熊本大学	考古学講座第4講「縄文時代から弥生時代へ」	熊本大学教授 甲元眞之氏
0824	依頼	宇佐市教育委員会	考古学講座第6講「弥生時代から古墳時代へ 一小遺址原遺跡と宇佐市小塚遺跡・風土記の丘古墳群一」	宇佐市教育委員会職員 小倉正五氏
0914	依頼	別府大学	考古学講座第7講「平成16年度発掘調査報告」	別府大学講師 玉川剛司氏
0928	依頼	大分県教育庁埋蔵文化財センター	考古学講座第8講「比多国造から日田郡へ 一前方後円墳と「風土記」からみた日田の古代一」	大分県教育委員会職員 田中裕介氏
1015	派遣	光岡公民館	光岡公民館ヒカリっ子塾	土居・若杉・矢羽田
1105	派遣	瀬府大学日田歴史文化研究センター	威宜園の考古学	土居
1112	派遣	大山小学校	中川原遺跡大山小学校児童向け現地説明会	土居・今田・行時・若杉・渡邊・矢羽田
1116	派遣	上野町自治会	こまてわかつた古代の上野	行時・矢羽田
1130	派遣	大山小学校	大山のり祭	土居・若杉・渡邊・矢羽田・中村
1210	派遣	日田考古学同好会	「豊後国風土記」について	中村
0112	派遣	ひたマチづくり研究所	「豊後国風土記」について	中村

### 4. 刊 行 物

埋蔵文化財に関わる刊行物の今年度の発行件数は年報1件、調査報告書12件であった。

	書 名	巻次	体裁	総頁	内 容
1	平成16年度(2004年度) 日田市埋蔵文化財年報	-	A4	17	平成16年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財調査事業、埋蔵文化財保護事業、埋蔵文化財普及および啓発事業などを所収。
2	祝原遺跡	61	A4	16	岡場整備に伴う埋蔵文化財調査の成果。縄文時代の包含層、中世の水田層、近世の竪立柱建物等を所収。
3	大肥中村遺跡Ⅰ	62	A4	29	岡場整備に伴う埋蔵文化財調査の成果。古墳時代の竪穴住居・石棺墓・土坑・溝、奈良時代の竪穴住居、平安時代の竪立柱建物・祭祀ピット・土坑・水田層等を所収。
4	大肥下河内遺跡	63	A4	35	岡場整備に伴う埋蔵文化財調査の成果。縄文時代の包含層と同時期と見られる竪穴遺構・黒石遺構・土坑等を所収。
5	大肥祝原遺跡Ⅱ	64	A4	39	岡場整備に伴う埋蔵文化財調査の成果。縄文時代の包含層と同時期と見られる竪穴・集石・土坑等を所収。
6	高野遺跡	65	A4	103	岡場整備に伴う埋蔵文化財調査の成果。弥生時代の竪穴住居・竪立柱建物・竪穴遺構・土坑・竪棺墓、中世の竪立柱建物・土坑・溝等を所収。
7	大肥遺跡Ⅰ -B・C区の調査の記録-	66	A4	222	岡場整備に伴う埋蔵文化財調査の成果。弥生時代の竪穴住居・木棺墓・石棺墓・竪穴住居・土坑・周溝状遺構、古墳時代の竪穴住居・石棺墓・土坑・土坑の竪穴住居・土坑等を所収。
8	大肥遺跡Ⅰ -A・2区の調査概要-	67	A4	35	岡場整備に伴う埋蔵文化財調査の成果。弥生時代の竪立柱建物・導水路状遺構・木枠組遺構・溝・水路等を所収。
9	一丁田遺跡	68	A4	23	宅地分譲地造成工事に伴う埋蔵文化財調査の成果。弥生・古墳時代の竪穴住居・土坑・溝、中世の竪立柱建物・溝等を所収。
10	尾槽2号墳	69	A4	26	ウッドコンビナート建設に伴う埋蔵文化財調査の成果。古墳時代の円墳1基(主体部2基)を所収。
11	吹上Ⅳ	70	A4	158	平成7年に実施した6次の埋蔵文化財調査の成果。弥生時代の青銅器や鉄器などの武器類、貝輪や玉類などの装身具といった副葬品が納められた大型の竪穴住居や木棺墓のほか、平安時代後期の経塚1基などを所収。
12	津瀬遺跡Ⅱ	71	A4	29	昭和59年度に実施した1次の埋蔵文化財調査の成果。弥生時代の溝と竪穴住居と推定される遺構等や弥生・古墳時代、中世の遺物を所収。
13	中川原遺跡	72	A4	26	小学校グラウンド改修に伴う埋蔵文化財調査の成果。弥生時代の竪穴住居・石棺墓・木棺墓・土溝墓、中世の土溝墓等を所収。

### 3) その他

今年度、埋蔵文化財関連資料の貸出は11件、借用3件であった。

#### 1. 資料借用・貸出

受付月日	区分	資料名	借用・貸出先	目的
0520	貸出	大宮司遺跡出土石器	個人	展示
0705	貸出	日田市埋蔵文化財報告書第30・33～35集、H12年度年報、H14～16CD	個人	インターネットホームページ掲載
0808	貸出	朝日天神山古墳2号墳出土遺物写真(ボジ)	宮崎県立西都原考古博物館	書籍掲載
0822	貸出	朝日天神山古墳2号墳出土大型平底甕	宮崎県立西都原考古博物館	展示
1011	借用	草場第2遺跡・北友田横穴墓群出土遺物および写真	大分県教育庁埋蔵文化財センター	展示
1019	借用	成宜原絵図・入門簿、硯、墨、筆	廣瀬資料館	展示
1020	借用	水漏	個人	展示
1116	貸出	穴原遺跡出土石籠等写真	光岡小学校	書籍掲載
1121	貸出	小迫辻遺跡発掘調査関連写真(ボジ) および図面	熊本県さくら市ミュージアム荒井寛方記念館	パネル作成及び図録掲載
1130	貸出	成宜原出土陶磁器・硯およびパネル類	大分県教育庁文化課	展示
0223	貸出	吹上遺跡K4号墓出土ゴホウラク製貝輪(レプリカ)	宮崎県立西都原考古博物館	展示および図録掲載
0223	貸出	吹上遺跡K4・5号墓 人骨、副葬品出土状況写真	宮崎県立西都原考古博物館	図録掲載
0317	貸出	吹上遺跡4号墓横墓出土遺物等写真	九州国立博物館	図録および広報資料掲載
0328	貸出	日田市空中写真	PHP研究所	書籍掲載

#### 2. 資料寄託・寄贈

受付月日	区分	資料名	数量	寄託・寄贈者	備考
0614	寄贈	朝日天神山古墳1号墳出土須恵器・土師器	12	個人	
1026	寄贈	瓦・打製石斧・黒曜石原石	5	個人	
0331	寄託	弥生土器、石彫刻	9	個人	

#### 3. 資料閲覧

期間	資料名	内容	申請者	目的
0526	亀石山遺跡出土石器等	実見	熊本大学大学院社会文化科学研究科 芝藤 康郎 氏	学術研究
0907～0908	亀石山遺跡・大坪遺跡・西遺跡・宇土遺跡ほか出土石器等	実見・写真撮影	東京大学大学院新領域創成科学研究科 森先 一貴 氏	個人研究利用
1022	伝 船塚古墳出土蛇行剣等	実測・メモ、写真撮影	(財)石川卓理蔵文化財センター 伊藤 重文 氏	蛇行剣研究のため
0129	朝日天神山古墳出土遺物(壺形土器等)	実見・拓本、写真撮影	韓国全南大学校教授 林 永珍 氏	研究および国際学術交流のため
			瀨府大学教授 下村 智 氏	
			福岡大学助教授 嶋崎 祐輔 氏	
埼玉県本庄市教育委員会 太田 博之 氏				
0215	吹上遺跡4号・5号壺形出土土輪	実見	宮崎県立西都原考古博物館学芸普及班主任 東 重章 氏	特別展開催に伴う資料調査のため
0302	宇土遺跡3号墳	石棺目地の確認	熊本県立筑前古墳館主任学芸員 池田 朋生 氏 熊本文化財研究所主任研究員 杉津 信明 氏	熊本県立筑前古墳館の企画展示準備に係る調査
0303	朝日天神山1号墳出土須恵器・平底甕	実見	奈良文化財研究所 高橋 克寿 氏 大分県教育庁埋蔵文化財センター 田中 智介 氏	朝日天神山古墳地輪調査





